

- 季節の花：桜・マーガレット
- コラム：花の色・かたち・香り
- イベント情報

# ふらっとふらわーず ニュース

- 発行：ふらっとふらわーず
- 2013春号 第2号
- 連絡先：042-682-2835
- 編集委員：内田信子

## 季節の花

### ★【桜（さくら）】バラ科サクラ属サクラ属

「さくら」といって、「ソメイヨシノ」「ヤマザクラ」「ヤエザクラ」などたくさん種類があります。現代は「桜」といえば「ソメイヨシノ」がその代表で、桜の開花予想もソメイヨシノで行われています。「ソメイヨシノ」は幕末頃「オオシマザクラ」と「エドヒガンザクラ」を掛け合わせて染井村で作られたところから名付けられたとされ、葉よりの花が先に咲き誇ります。



「桜」の名前の由来は諸説ありますが、古事記に登場した木花咲耶姫（このはなざくやひめ）の「さくや」が転訛した説があります。百人一首にも「ひさかたの光のどけき春の日にしづ心なく花の散るらむ（紀友則）」など、数々の歌に桜が詠まれています。枕の草子や源氏物語にも桜は登場しています。その頃「花」といえば「桜」。そして種類は「ヤマザクラ」が多かったようです。「ヤマザクラ」は開花とほとんど同時に葉が出て、葉の色は赤みを帯びています。

このように古くから日本人に親しまれ、吉野山の桜や豊臣秀吉の醍醐の花見も有名ですが、江戸時代三代将軍家光が上野に寛永寺を建てて吉野の桜を移植したり、八代将軍吉宗が飛鳥山を桜の名所にしたりして、桜は今に受け継がれています。明治にはアメリカへ桜が送られて、現在もワシントンの桜並木は世界の名所の一つになっています。

さて、現在NHKで放送中の「八重の桜」のタイトルに、なぜ桜をつけたのか調べてみました。常に前を向いて真っ直ぐに生きるヒロイン（八重さん）の姿に重ねて「春は来る。」復興する。「という意味で「桜」をつけたのだそうです。桜→春→希望という心情。この花が親しまれ続けている一因かもしれないですね。今年は早めに桜前線が北上しています。皆様のお近くではもう開花しましたか？（参考：日本観光振興協会・NHK）

### 花言葉

「優れた美人」「純潔」「精神美」（花言葉事典より）

### ★【マーガレット】和名：モクシユンキク（木春菊）キク科モクシユンキク属

明治時代に導入された白花の園芸品種が有名ですが、黄色やピンクなどの改良品種もあります。フランスではフランス菊のことをマーガレットと呼ぶそうです。「シヤスタデージー」も花がよく似ていて混乱します。「マーガレット」は花後に雨に当たると枯れやすく、半耐寒性で寒さに弱く



一年草的な性質が強いですが、「シヤスタデージー」は「フランス菊」と「ハマギク」を交配したもので耐寒性が強く多年草です。この「マーガレット」と「シヤスタデージー」を見分ける方法は、「葉の形」をよく見比べます。マーガレットの葉は「春菊」によく似ていて細かい切れ込みがあります。



名前の由来  
ギリシア語のマリガリーテ（真珠）  
育て方  
栽培環境：寒風の当たらない日当たりのよい場所。高温多湿を嫌う  
水やり：表面が乾いたらたっぷり。開花中は花に水がかからないように  
肥料：春と秋に置き肥。11月から4月に液体肥料  
作業：3月から6月と、9月から10月に各枝に緑色の元気な葉が残るように切り戻す

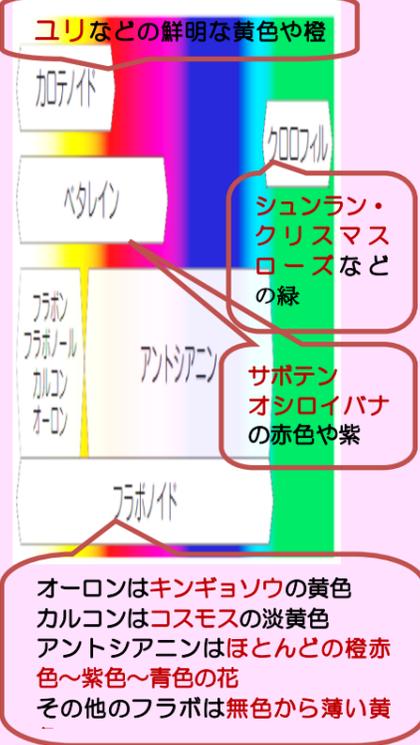


## コラム 色・かたち・香り

皆さん「モンシロチョウは白・黄色の花が好き」ってご存知でしたか？「アゲハチョウは赤色」「ミツバチは紫・青・黄色」そして「鳥は赤色」と、それぞれ好みの色があるそうです。

花の色の役割は、花粉媒介者（ポリネーター）に存在をアピールするため、花粉を運ぶ役割を担ってくれる大切なパートナー「昆虫や鳥」に花粉を付けさせて他の花へ受粉させ、実を結ばせる、子孫繁栄のための工夫です。熱帯地方の花に赤色が多いのは、赤が好きで鳥が花粉媒介者となっているからだと考えられています。

花の中で最も多い色は黄色、次いで白色で、さまざまな色素がひとつの花で作られることで、色が混ぜ合わさり、花びらの場所によって作られる色素が変化すると、模様を作られます。模様は花粉媒介者にアピールするための、より複雑な手段です。花の色を決定する一番の要因は細胞の中に存在する色素です。



4大植物色素の一覧と代表的な花を図（左上）にまとめました。

例えば黄色・橙・赤の色素となるカロチノイドの量によって色が違う様子が下の写真で、濃い色がカロチノイドを多量に含んでいます。



花のかたちは、前回のコラムで紹介した一重八重の他に、形状でも分類でき、「皿状花」「キク」「わん状花」「ヤマブキ」「つり鐘状花」(リンドウ)「ロート状花」(アサガオ)「フラシ状花」(アザミ)「のど状花」(スミシ)「旗状花」(レンゲソウ)「管状花または筒状花」(サルビア)などに分けられます。

例えば「皿状花・わん状花」はミツバチ、アブや甲虫などが好んできて上向きに咲いた花の中や上をはいまわり受粉するといふ原始的な花形。

「つり鐘状花・ロート状花」はアブ、ハナバチやチョウたちが花の中に入らざるをえないので、花粉は腹や背など、さまざまなか所にこぼる。



「旗状花」は上方と下方に分けたとき、上方の花びらがかさした旗のかたちになり、奥の深いところからよばれるようになり、奥の深いところには蜜や花粉がかくされているので、知恵と力のあるハチたちでなければ、そこにもぐり込んで蜜や花粉をとり出すことができないような花形になっているそうです。

香りも昆虫などを引き寄せるためのアピールで、色々な香気成分が混ざり合って花の香りができています。夜強く香る花は蛾を引き寄せるため。風強く香る花は、ハチなどを引き寄せるため。花を両手で包み込むように温めると、香りが立ちますので、是非一度お試しください。

色もかたち香りも、子孫繁栄のために様々な形に工夫されているんですね。

(参考：箱崎美義著「花の科学」研成社、花き研究所)

## 情報

- 第23回日本フラワー&ガーデンショウ  
3月22日(金)～24日(日) 幕張メッセ
- フラワードリーム2013  
4月13日(土)～14日(日) 東京ビックサイト
- 第15回国際バラとガーデニングショウ2013  
5月11日(土)～16日(木) 西武ドーム
- 第15回記念フラワーフェスティバル由木  
4月27日(土)～5月6日(月) 南大沢駅周辺